

カキ生育情報

千葉県
平成23年12月号

1年間の気象

平成22年12月から平成23年11月までの月別気象は表1に示した。月平均気温は平成23年1月、3月及び5月を除く全ての月で平年を上回った。この1年間の平均気温は16.2℃で平年より0.6℃、前年より0.1℃高かった。降水量は平成23年1月、3月、4月、6月～9月で平年を下回り、この1年間の合計は1,581mmで平年の82%、前年の71%であった。日照時間は平成22年12月、平成23年1月、3月、4月、7月～11月で平年を上回り、この1年間の合計は2,215時間で平年の114%、前年の112%であった。

表1 平成22年12月～平成23年11月の気象（暖地園芸研究所）

年	月	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
H22	12	10.0	8.6	8.6	131	83	149	175	166	169
H23	1	5.0	6.2	6.6	1	79	34	220	169	149
	2	7.6	6.5	6.5	138	88	164	121	151	111
	3	8.4	9.1	9.0	60	162	211	212	154	130
	4	14.3	14.1	12.0	104	160	309	229	166	125
	5	18.0	18.1	18.0	228	149	104	166	177	201
	6	22.0	21.2	21.9	136	212	154	112	133	156
	7	25.7	24.3	26.7	100	193	206	193	175	225
	8	25.9	25.8	27.9	57	154	47	234	220	275
	9	24.1	22.7	24.6	148	247	268	207	146	198
	10	18.3	17.9	18.2	325	253	404	139	137	90
	11	14.5	13.2	13.6	153	150	163	207	144	142
平均/計		16.2	15.6	16.1	1,581	1,930	2,213	2,215	1,938	1,971

平年：1968～2010年の平均

本年度産果実の特徴

本年産のカキの生育状況を振り返ると、3月中旬の気温が高かったため、発芽期は平年より早かった。その後気温の低い日があり、開花期は平年よりやや遅れた。春先の強風により新梢の枝折れや葉の傷害が目立った。本年は成り年で着果量は平年よりやや多かったが、梅雨明けが7月9日で平年より11日早く、夏期の気温が高く、初夏から初秋にかけて降水量が少なかったため、果実の肥大は遅れ、収穫果も小さかった。生理落果は平年並みで、炭疽病、カメムシ類の発生が多かった。

1. 熟期

収穫期は表2に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「西村早生」が9月12日、26日、10月4日、「松本早生富有」が10月17日、24日、31日、「富有」が10月17日、31日、11月14日で、「松本早生富有」の収穫始期を除いて、平年より2～12日早かった。本年の収穫は「西村早生」及び「富有」が平年より早く始まり、早く終了した。

いすみ市の「西村早生」の収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、9月20日、10月5日、10日、市原市の「松本早生富有」の収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、10月20日、11月10日、28日で、いずれも暖地園研より遅かった。

表2 収穫期（暖地園芸研究所）

品 種	収穫始期(月.日)			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	9.12	9.18	9.22	9.26	9.29	9.29	10.4	10.7	10.5
松本早生富有	10.17	10.13	10.12	10.24	10.26	10.19	10.31	11.8	11.2
富 有	10.17	10.27	10.25	10.31	11.12	11.8	11.14	11.21	11.16

平年：1997年～2010年の平均

2. 果実の大きさ

収穫果実の大きさは表3に示した。1果平均重は、「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ172g、226g、「富有」は188gであった。いずれの品種も平年より6～29%程度下回った。

3. 糖度及び品質

糖度、へたすき及び汚損果程度は表3に示した。糖度は、「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ15.8、16.6、「富有」は16.3であった。いずれの品種も平年より1.2～1.6高かった。

へたすきの発生は「西村早生」が前年より多かったが、「松本早生富有」及び「富有」は前年と同程度であった。

汚損果程度は「西村早生」が前年と同程度であった。「松本早生富有」は市原市で前年より多かったが、暖地園研では少なかった。「富有」は前年より多かった。

4. 病害虫の発生

暖地園研では、カメムシ類による吸汁害や炭疽病の発生が平年よりやや多くみられた。

いすみ市では、炭疽病、落葉病、カメムシ類、カキクダアザミウマの発生がみられたが、平年並みであった。

市原市では、病害はほとんどみられなかったが、ハマキムシ類の発生が平年並みにみられ、アオマツムシやルビーロウムシの発生が増えてきている。

表3 果実の大きさ及び品質

品 種	調 査 地	1果平均重(g)			糖度計示度(Brix)			へたすき		汚損果程度	
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	前年	本年	前年
西村早生	いすみ市	168	202	170	15.1	14.4	13.7	少	微	少	少
	暖地園研	176	201	182	16.4	14.6	13.7	少	微	少	少
	平 均	172	202	176	15.8	14.5	13.7	—	—	—	—
松本早生富有	市原市	222	231	187	16.7	15.3	16.1	少	少	中	少
	暖地園研	230	248	229	16.5	14.7	15.5	少	少	少	中
	平 均	226	240	208	16.6	15.0	15.8	—	—	—	—
富 有	暖地園研	188	265	210	16.3	15.1	15.5	微	微	少	微

平年：暖地園研は1990年～2010年の平均、いすみ市、市原市は1998年～2010年の平均

12～5月の作業

整枝・せん定

整枝せん定にあたっては、結果母枝の充実度を確保したうえで、結果過多にならないように留意し、12～2月が適期である。せん定は間引きせん定中心に行い、切返しせん定による枝の更新も行う。特に不必要な徒長枝及び軟弱枝はすべて取り除き、病害虫多発園では密集した枝を風通しのよくなるように適宜間引く。

摘 蕾

開花10日前～開花直前(5月上中旬頃)に行う。摘蕾は樹体の消耗を抑え、大果生産と隔年結果防止のために行うので、せん定の一部と考える。着蕾量が少ない場合は、小花、奇形花は落とすが、着蕾量を確認しながら過度には行わないようにする。着蕾量が多い場合は、充実した花蕾を残すよう摘蕾を徹底する。

病害虫防除

病害虫の越冬源を絶つために、落葉の処分と粗皮削りを徹底して行う。うどんこ病、落葉病、黒星病の予防は、発芽前の3月中下旬が防除適期である。また、カイガラムシ類の多い園では、休眠期の12～2月までが防除適期となる。展葉期の4月下旬は、うどんこ病、ハマキムシ類、フジコナカイガラムシ、チャノキイロアザミウマの防除適期である。防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>